

蔵前の草木染め工房とともに、上野の歴史と地域のものでつくりを未来へつなぐ 藍染めで松坂屋上野店の暖簾をリニューアル

2026年10月7日（水）／松坂屋上野店 1階北口アーケード



松坂屋上野店は、10月7日（水）から1階北口アーケードに掲出する暖簾をリニューアルいたします。1768（明和5）年に江戸へ進出して以来、上野の街とともに歩んできた松坂屋にとって、暖簾は呉服店をルーツとする歴史や伝統を象徴する大切な存在です。このたび新たに掲出する暖簾は、単なる更新ではなく、地域のものでつくりの力を未来へつなぐ取り組みとして制作。台東区蔵前で伝統的な草木染めを手がける工房〈マイトデザインワークス〉の職人が、丁寧に染め上げました。長年お客様を迎えてきた暖簾の歴史を受け継ぎながら、上野の街とともに新たな歴史を刻む一枚として、地域の魅力と伝統技術を発信してまいります。

【特設ページ】 https://www.matsuzakaya.co.jp/ueno/topics/2026_ueno_noren_renewal.html



歌川広重「下谷広小路」〔『名所江戸百景』1856年刊〕



リニューアルした松坂屋上野店の暖簾

地域で活躍する職人の手で染め上げる「お店の顔」

江戸の町では、耐久性と美しさを兼ね備えた藍染めの暖簾が広く用いられ、染色技術が発展してきました。現在も台東区には染色をはじめ、革製品や工芸など多彩なものでつくり文化が受け継がれています。松坂屋上野店は、こうした地域に根付く技術や文化に共鳴し、今回の暖簾制作を台東区蔵前の草木染め工房〈マイトデザインワークス〉に依頼しました。職人が丁寧に染め上げることで、歴史と地域性を兼ね備えた一枚が完成しました。



店長が藍染めを体験 受け継がれる手仕事の価値を実感



新たな暖簾の制作にあたり、松坂屋上野店の山崎店長が工房を訪問し、藍染めを体験しました。藍染めの技法や地域に根差したものでつくりへの思いを聞きながら、実際に藍液へ布を浸す工程を体験。藍染めの深い色合いは一度では生まれず、何度も染め重ねることで表現されます。体験を通じて、先人から受け継がれてきた技術や自然の恵み、そして職人の手仕事の価値を改めて実感しました。

新しい暖簾のお披露目

新しい暖簾は10月7日（水）から松坂屋上野店1階北口アーケードに掲出いたします。

上野の街とともに歩んできた歴史を受け継ぎながら、地域の職人による手仕事によって生まれ変わった新しい暖簾。松坂屋上野店はこれからも地域に根差した百貨店として、伝統技術やものでつくり文化の魅力を発信し、地域とのつながりを育んでまいります。

【取材に関するお問い合わせ先】大丸松坂屋百貨店 松坂屋上野店 首都圏 PR 広報

TEL 050-1782-1000（大代表） 田中・宮原